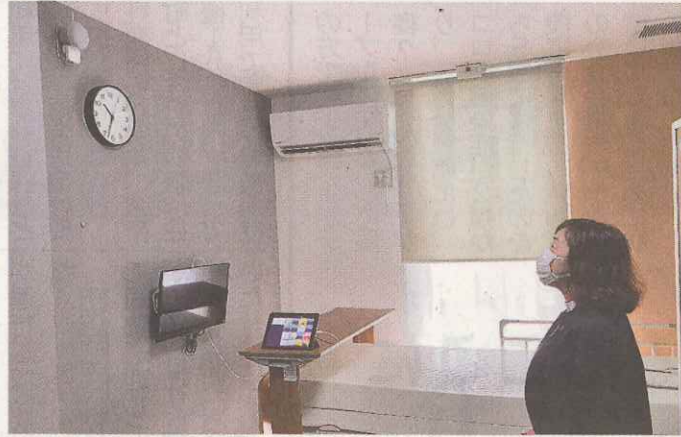


音声でカーテン開閉

特養職員の業務軽減

徳島市



グーグルスピーカー（左上）に話し掛けるとカーテンが自動で開閉する

地域密着型特養 KAGUYA LIFE

「オックケーグーグル。アリス、カーテン開けて」。職員が入所者の居室の壁に設置されたグーグルスピーカーに話し掛けるとカーテンが自動で開閉する。照明の消灯なども音声でできる。（榎戸新）

ここは徳島市にある

地域密着型特別養護老人ホーム「KAGUYA LIFE」（社会福祉法人あさがお福祉会）。

ICT（情報通信技術）を積極的に取り入れ、業務の負担軽減と効率化を図っている。ポイントは一使い勝手の良さだ。

朝、職員が居室のカーテンを開け、照明を消し、起床を促すのにかかる時間は1居室1分程度にすぎないが、全29室を回ると30分近くかかり、朝夕で約1時間にもなる。それが毎日のことだと考えれば、一定の所要時間を軽減できる。カーテンが自動で開閉する間は入所者の様子を観察し、顔を見て会話でき

るメリットもある。

また、音声で居室の窓の開閉ができるほか、入所者が好きな音楽やラジオを流すこともできるので、入所者がCDなどを持ち込んだり、職員が操作したりすることが不要になった。入所者の孫が来た際にこどもの好きな音楽を流すこともできる。

さらに今日の天気や昔の出来事を尋ねると紹介してくれるので、コミュニケーションの話題にもなる。各居室のグーグルスピーカーには「アリス」など個別名がついているので誤作動もない。同施設は2020年4月開設。生産性の向上に向け、夜間帯に入所者のバイタルや入眠状態などを一括で確認できる見守り機器や、

市町村の6割に無縁墓

総務省が初の実態調査

総務省は3日、市町村が高いところから、2017年度に発生労働者に対する市町村のうち、6割に当たる

生前の孤独・孤立は

社会問題だとして解消を目指す立法が進んだが、身寄りのない人の葬祭、遺骨や墓の管理についてはこれまで問題視されにくかった。しかし、総務省は今

年3月、親族などの引き取り手がいない死者

QRコードを読み込めば記録できる介護記録ソフト、ベッドパッドが不要でリネンの使用を減らせるマットレスなども導入している。

これらの取り組みで活用されないことが大事なのは「職員が誰でも使えること」だと管理者の西川珠姫さんは言う。コストを掛けようにならないといけな

子ども家庭庁

居場所指針策定へ

こどもの視点、意見を反映

「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）」の策定に向けた議論が子ども家庭庁の部会で進められている。「その場を居場所と感ずるかどうかはこども、若者本人が決める」としている。

指針にはこども、若者ども、若者からの意見や思いは対面とアンケートで聴取を終えており、何らかの形で反映させざるを得ない。

利用者から教える側に

愛知県稲沢市社会福祉協議会が実施する学習支援教室「ブリッジルーム」に、かつて利用者だった名古屋大1回生の石川梨緒さん（19）が教える側にな

って戻ってきた。塾の雰囲気や苦手で通信教育を利用し、家や図書館で勉強してきたが、「学習環境を変えて気分転換したい」と、中学1年の夏から



ブリッジルームは稲沢市からの委託を受け、市社協が2016年度から実施する無料